

### 2019 鈴鹿Mini-Moto4時間耐久レース Race Report 2019.9.8

#### ■開催概要

●大会名称 : 2019 鈴鹿Mini-Moto4時間耐久レース

●開催場所 : 鈴鹿サーキット 国際レーシングコース (5.821km)

三重県鈴鹿市稲生町7992

●開催日 : 2019年9月8日(日)●天候 : 9月8日(日)/晴れ●開催クラス: 総参加台数/96台

 APE100&XR100Motard-ST
 24台

 KSR-ST
 4台

 HOPPER-ST
 2台

 GROM-ST / Z125 PRO-ST
 20台

 HRC GROM Cup
 46台

【参加台数・人数】	【年齢】	【所属県】	【所属県】
2名で参加…58チーム	14歳以下…2名	宫城県…1名	岡山県…4名
3名で参加…25チーム	15歳~19歳…6名	栃木県…1名	広島県…1名
4名で参加…13チーム	20歳~24歳…21名	千葉県…2名	高知県…2名
合計/96チーム・243名	25歳~29歳…10名	東京都…6名	福岡県…1名
	30歳~34歳…14名	神奈川県…5名	佐賀県…1名
【性別】	35歳~39歳…18名	山梨県…1名	大分県…3名
男性…231名	40歳~44歳…26名	長野県…2名	鹿児島県…1名
女性…12名	45歳~49歳…68名	石川県…3名	
	50歳~59歳…64名	静岡県…4名	
	60歳以上…8名	愛知県…29名	
	不明…6名	岐阜県…5名	
		三重県…47名	
		滋賀県…12名	
		京都府…13名	
		奈良県…30名	
		和歌山県…1名	
		大阪府…53名	
		兵庫県…15名	

※数字はプログラム上の集計のため、ライダー変更等のデータ は反映されていません。ご了承ください。



### 仲間や親子、夫婦、兄弟といっしょに参戦可能! 「バイクが好き」をキーワードに様々な人と交流できるのも魅力

多くの感動のドラマが生み出されてきた鈴鹿8時間耐 久ロードレース。"バイクの祭典"と呼ばれるそのビッグ レース同様、見ごたえのあるバトルが展開されることで有 名なのが鈴鹿Mini-Moto 4時間耐久ロードレースだ。

本格的でありながら、仲間や家族など身近な人とチームを組んで気軽に参加できるミニバイク耐久として2005年の第1回大会から人気を集めてきたこのレース。一昨年からカワサキZ125 PROが参戦可能となり、さらにHRC GROM Cupクラスも設定され、参戦の選択肢が増えて楽しみが増したこともあり、今年も近畿・東海を中心に、北陸から南は佐賀・大分まで幅広い地域からライダーが集結。また、13歳から70歳超という幅広い年齢層のライダーが参戦した。

このレースは有名ライダーによるゲストチームの参戦も楽しみだ。今年はともに全日本J-GP3クラスに参戦している岡崎静夏選手と中山愛理選手がHRC GROM Cupクラスに参戦した。

また、元WGP125ccクラス経験者の加藤義昌さんや全日本ロード経験者の徳留和樹選手、その現役では伊達悠太選手、全日本トライアルからは昨年に続き小玉絵里加選手といったライダーに加え、俳優の齋藤祥太さんも参戦。「バイクが好き」をキーワードに憧れの人たちと気軽に交流できるのもこのレースの醍醐味だ。

今年は公式予選と決勝レースが9月8日(日)に行われる 1DAY大会として開催されたこのレース。公式予選から決勝レースまで見どころの多い日となった。



ゲストチームとして全日本ライダーの岡崎静夏選手(左)と中山愛理選手がHRC GROM Cupクラスに参戦残念ながらオープニングラップで岡崎選手が転倒し、大きく後退してしまった



# ウェットパッチが残るコースで行われた公式予選 #68佐貫良太/寺田誠組がポールポジションを獲得!

5分間の先導走行の後、A・Bグループ30分間ずつの公式予選がスタート。まずAグループのRider Blue47名がウェットパッチが残るコースへと突入していく。

#3佐藤大輔が3分20秒440をマークしてタイミングボードのトップに。#13久保山孝二が3分30秒875をマークしてそれに続く。その時点での3分30秒台はその2台だけだったが、#15本郷勝巳が3分20秒709をマークして2台の間に割って入る。#3佐藤、#13久保山は周回ごとに自己ベストを更新。#15本郷はピットに入る。ゲストチームの#01岡崎静夏選手が3分19秒816を、#37中村喜昭が3分19秒675をそれぞれマーク。結局、#3佐藤がマークした3分17秒273がAグループのトップタイムとなった。

15分間のインターバルの後、BグループのRider Blue48名がコースへ。まず#100榊原浩二が3分17秒 042をマークするが、#888信近靖将がそれを上回る3分 16秒591をマーク。#100榊原は3分15秒754をマーク して自己ベストを更新。#77海老名輝悦が3分16秒072を、#773松浦幸大が3分16秒309をそれぞれマークする。#68佐貫良太が3分14秒192をマークして3分14秒台に突入させると、レコードも更新。#100榊原も3分14秒820をマークすると、次のラップでは3分14秒264へと自己ベストを更新するが、#68佐貫のタイムには及ばない。結局、#68佐貫の3分14秒192がBグループのトップタイム。#68佐貫/寺田誠組がポールポジションからスタートすることとなった。



参戦2年目の#68佐貫良太/寺田誠組がポールポジションを獲得



# オープニングラップから波乱の展開#111福井宏至/原田悠平組が2年連続で総合優勝!

ル・マン式により、13時ジャストにレースがスタート。前半の48台に続き、1分間の時間差で後半の48台も1コーナーへと飛び込んでいく。

オープニングラップの130Rでなんとゲストチームの#01岡崎静夏選手(中山愛理選手組)、3番グリッドスタートの#100榊原浩二(的場浩晃組)が転倒。22番グリッドスタートの#111原田悠平(福井宏至組)、同13番の#773松浦幸大(入江高伸組)、同4番の#13久保山孝二(吉田忠幸組)のオーダーでオープニングラップを帰ってくる。序盤の4周目のシケインで#773松浦と#13久保山が転倒。その後も20台ほどがトップグループを形成してバトルを続ける。

トップグループの中では#68佐貫良太(寺田誠 組)が 19周目にピットイン。20周目終了時点で他の上位チーム もピットに入る。

スタートから1時間30分が経過する頃になるとトップグループは#111福井、#99伊達悠太(有吉輝芳 組)、#888信近靖将(平澤亮 組)、#155塚本颯(森飛翔 組)4台に絞られる。34周目終了時点で#99伊達がピットへ

入り、有吉にライダーチェンジする。40周目終了時点で#111福井、#888信近、#155塚本らもピットイン。コース復帰後は#111原田、#888平澤、#155森のオーダーとなり、#99有吉は若干遅れる。#111原田と#888平澤は#155森を引き離すと、さらに#111原田は#888平澤をも引き離して単独トップとなる。

3時間12分を経過する頃、スプーンカーブ立ち上がりで転倒したマシンがコース上に留まったことにより、赤旗が出されてレースは終了。#111福井/原田組が2年連続で総合優勝を飾ると同時にGROM-ST/Z125 PRO-STクラスのウィナーに。HRC GROM Cupクラスでは総合2位の#68佐貫/寺田組が、APE100&XR100Motard-STクラスでは総合15位の#3佐藤大輔/上野昭弘/寺井健二/谷本音虹郎組が、KSR-STクラスでは総合44位の#1今西晃士/杉本功組が、HOPPER-STクラスでは総合50位の#96沢下智樹/坂尾智博/寺西敦組がそれぞれクラスウィナーに輝いた。



決勝レース直前になっても緊張感より楽しそうな雰囲気が勝るのはこのレースならでは





HRC GROM Cupクラス表彰式 優勝:#68 HOTROD+SHIFTUP+速心(佐貫良太/寺田誠) 2位:#888 つりファイター vs 名古屋ゴメス vs でいとな(信近 靖将/平澤 亮) 3位:#99 でいとなK-FACTORY(有吉 輝芳/伊達 悠太)



GROM-ST/Z125 PRO-STクラス表彰式 優勝:#111 でいとなK-FACTORY(福井宏至/原田悠平) 2位:#71 Gripマフラー屋です(吉岡洋一/濱名 透) 3位:#155 Grip(塚本 颯/森 飛翔)





APE100&XR100Motard-STクラス表彰式 優勝:#3 speedHeart+チームマムシ(佐藤大輔/上野昭弘/寺井健二/谷本音虹郎) 2位:#15 No Limit&ZAIKE+伊賀II輪改+ALTEC UNLABEL(本郷勝己/川村友長/折川翔馬) 3位:#56 勝鬨Racing 29-WORKSと綿麺(狗巻 大介/狗巻 範子)



KSR-STクラス表彰式 優勝:#1 マックウェスタン&ナウウェスト(今西晃士/杉本功) 2位:#74安藤ガレージ☆T-craft☆SUS441☆(三谷 信代/安藤 勝司)





HOPPER-STクラス表彰式 優勝:#96 TEME DEMON with misolution(沢下智樹/坂尾智博/寺西敦)



メンバー同士で記念撮影を楽しむなど、和気あいあいとしたムードが漂う